

第2次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン 2022年度および2023年度 事業計画

基本方針	基本施策	実施手法	推進主体	市の評価
1 協働による取組を進めます 市民、事業者との連携を強化し、の	1-1 市民との連携による取組の推進	1-1-1 3R学習の充実	環境政策課	◎
		1-1-2 担い手づくりに向けた取組の推進	環境政策課	○
	1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進	1-2-1 飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の推進	環境政策課	○
		1-2-2 スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の推進	環境政策課	○
	1-3 市民や事業者の主体的取組の支援	1-3-1 地域が行う取組の支援	環境政策課	△
		1-3-2 事業者が行う取組の支援	環境政策課	△
1-3-3 各種情報ツールを活用した情報発信		環境政策課	○	

基本方針	基本施策	取組施策	推進主体	市の評価
2 家庭系ごみの減量を 進めます	2-1 生ごみの減量の推進	重点 2-1-1 生ごみの発生抑制	環境政策課	○
	2-2 プラスチックごみの減量の推進	重点 2-2-1 プラスチックごみの発生抑制	環境政策課	△
		重点 2-2-2 プラスチックごみの資源化の推進	環境政策課	○
	2-3 その他の家庭系ごみの減量の推進	重点 2-3-1 リデュース・リユースの推進	環境政策課	△
3 事業系ごみの減量を 進めます	3-1 事業系ごみの適正排出の推進	重点 3-1-1 適正排出に向けた取組の推進	環境政策課	○
		3-1-2 優良事例の公表・拡大	環境政策課	◎
	3-2 事業系ごみの減量の促進	3-2-1 公共施設から排出される事業系ごみの削減	環境政策課	◎
3-2-2 事業系生ごみの削減		環境政策課	△	
4 環境に配慮した資源化 を努めます	4-1 一般廃棄物処理施設の整備	重点 4-1-1 環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営	循環型施設管理課	△
		4-1-2 生ごみのバイオガス化施設の整備・運営	循環型施設管理課	○
		4-1-3 資源化施設の整備	循環型施設整備課	△
	4-2 収集体制の整備	4-2-1 収集体制の見直し	ごみ収集課	△
5 社会的課題への対応を 強化します	5-1 災害時等のごみ処理に関する対応力強化	重点 5-1-1 災害時等のごみ処理に関する計画の見直し	環境政策課	○
		5-1-2 災害時等の教育・訓練	環境政策課 ごみ収集課	○
		5-1-3 応援・受援体制の整備	環境政策課	○
	5-2 超高齢社会の到来に伴うごみに関する問題への対応	5-2-1 高齢者等に対応した収集体制の検討	ごみ収集課	○
		5-3 不適正処理防止対策	5-3-1 不用品の違法回収防止対策の推進	環境政策課 ごみ収集課
	5-3-2 不法投棄防止対策の推進		ごみ収集課	◎
5-3-3 まちの美化の推進	環境共生課		◎	
		5-3-4 持ち去り行為防止対策の推進	ごみ収集課	△

市の評価基準について ◎:目標数値以上に実施 ○:目標数値とおり実施 △:目標数値を若干下回る ×:目標数値に程遠い

基本方針	基本施策	重点	実施手法	協働による主な実施手法								
				1-1-1	1-1-2	1-2-1	1-2-2	1-3-1	1-3-2	1-3-3		
1	市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます	1-1 市民との連携による取組の推進	1-1-1	3R学習の充実								
			1-1-2	担い手づくりに向けた取組の推進								
		1-2 事業者・各種団体との連携による取組の推進	1-2-1	飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の実施								
			1-2-2	スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の実施								
		1-3 市民や事業者の主体的取組の支援	1-3-1	地域が行う取組の支援								
			1-3-2	事業者が行う取組の支援								
1-3-3	各種情報ツールを活用した情報発信											
2	家庭系ごみの減量を進めます	2-1 生ごみの減量の推進	2-1-1	生ごみの発生抑制	○	○		○	○	○	○	
			2-2 プラスチックごみの減量の推進	◎	2-2-1	プラスチックごみの発生抑制	○	○	○	○		○
		◎	2-2-2	プラスチックごみの資源化の推進	○	○			○		○	
		2-3 その他の家庭系ごみの減量の推進	◎	2-3-1	リデュース・リユースの推進	○	○	○	○	○	○	○
				2-3-2	リサイクルの推進	○	○	○	○	○	○	○
2-4	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討	2-4-1	家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討									
3	事業系ごみの減量を進めます	3-1 事業系ごみの適正排出の推進	◎	3-1-1	適正排出に向けた取組の推進						○	
				3-1-2	優良事例の公表・拡大						○	○
		3-2 事業系ごみの減量の促進		3-2-1	公共施設から排出される事業系ごみの削減						○	
				3-2-2	事業系生ごみの削減			○	○		○	
			3-2-3	事業系紙類の減量・資源化						○	○	
3-3	事業系ごみ処理手数料の見直し検討	3-3-1	事業系ごみ処理手数料の見直し検討									
4	環境に配慮し、適正かつ安全な資源化施設を整備し、資源化施設に努めます	4-1 一般廃棄物処理施設の整備	◎	4-1-1	環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営							
				4-1-2	生ごみのバイオガス化施設の整備・運営							
				4-1-3	資源化施設の整備							
		4-2	収集体制の整備	4-2-1	収集体制の見直し							
		4-3	資源の有効活用の推進	◎	4-3-1	資源化の拡大						
5	社会的課題への対応強化	5-1 災害時等のごみ処理に関する対応力強化	◎	5-1-1	災害時等のごみ処理に関する計画の見直し							
				5-1-2	災害時等の教育・訓練	○		○		○		○
				5-1-3	応援・受援体制の整備							
		5-2	超高齢社会の到来に伴うごみに関する問題への対応	5-2-1	高齢者等に対応した収集体制の検討							
		5-3 不適正処理防止対策	5-3-1	不用品の違法回収防止対策の推進								○
			5-3-2	不法投棄防止対策の推進						○		○
			5-3-3	まちの美化の推進				○	○			○
5-3-4	持ち去り行為防止対策の推進							○		○		

実施手法	推進主体
1-1-1 3R学習の充実	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度の取組方針・内容
出前講座	60回	110回	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園、学童保育クラブ、小学校、中学校、町内会・自治会等での出前講座の内容をごみに特化したものでなく環境全体の要素取り入れた内容を検討し、実施します。 ・子ども向けの講座については、受講後に各家庭で子どもから保護者へごみ減量啓発の発信ができるような仕組みを作ります。また通常の対面式での講座の他にもWEBやリモートでの非対面式の講座を実施します。
3R公開講座	15回	30回	
イベント出展	5回	25回	
主催イベント実施	1回	2回	
キャンペーン実施	5回	14回	
町田市バイオエネルギーセンターでの3R公開講座	3回	3回	

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
子ども向け講座の受講後に各家庭で子どもから親へごみ減量啓発の発信ができるような仕組みづくりは、ごみ減量に対する市民の意識向上を図る上で効果的な取り組みだと思つたので、ぜひ強化・拡充いただきたい。	例えば、「リデュース」の行動事例で“ご飯は残さないで食べよう”と同時に親御さんには“食べられる分だけ作ってね”と言うことも“リデュース”だよと伝えています。紙のリサイクルについて児童自身が先生になって家で説明をすることを促して家族で3Rに取り組めるような仕掛けを内容に盛り込んでいます。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<ul style="list-style-type: none"> ・市職員が年間を通じて行っている出前講座（幼稚園保育園・小学校・自治会町内会）は、ごみを減らすキーワードである「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」の具体的な話や行動事例をわかりやすく伝え、誰もが取り組めるごみ減量のきっかけづくりを行いました。また、SDGsの内容を盛り込んで環境問題の要素も入れて実施しました。 ・町田市内各所で行われたイベントに参加して行った3R公開講座（移動図書館そよかぜ号とのコラボなど）は30回実施し、イベントに参加される子どもにも伝わりやすい内容を検討し、幅広い世代に啓発することができました。 ・主催イベントとして新たに各部署と共同で7月29日に芹ヶ谷公園で「働く車大集合」、10月15日にまちだシバヒロで「さんあーる広場」を行い、イベントをきっかけにごみ減量に興味のない方にも啓発を行うことができました。 ・キャンペーンは、5月29日にF C町田ゼルビアホームゲームでマイボトルキャンペーンと7月29、30日に市民フォーラムで行われたくらしフェア、10月8日に開催されたイベントで水切りキャンペーン、10月に食品ロス削減のキャンペーン、1月22日にペスカドーラ町田ホームゲームでマイボトルキャンペーン、2月4日～9日にかけて5回、各市民センターでサイズダウンキャンペーンを来場者の年齢層などを考慮して実施しました。 ・町田市バイオエネルギーセンターでの3R公開講座は、7月と11月にセンター運営者と協議して開催しました。また、3月5日に行った「まちだECO to フェスタ」で多くの来場者にむけて3R公開講座を開催しました。 ・WEBやリモートでの講座は実施できませんでしたが、3R啓発用DVDの貸し出しを行い非対面での啓発を行いました。 	

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度の取組方針・内容
出前講座	100回		幼児向け出前講座の見直しにより回数は減りますがより効果的な啓発ができるよう内容の検討をします。
3R公開講座	30回		イベントでの3R公開講座を積極的に実施します。
イベント出展	20回		実施地域を市内各地で開催できるようにし、来場者の年齢層等を考慮した啓発を行います。
主催イベント実施	1回		実施内容や効果を精査して実施します。
キャンペーン実施	14回		夏場暑い時期など生ごみに関心が向く傾向がある等、季節に合った内容のキャンペーンを年間通じて実施します。
町田市バイオエネルギーセンターでの3R公開講座	4回		事業者と協働して効果的な3R公開講座を実施します。
オンライン講座（新規）	5回		テーマ別にオンライン講座を行う。（食品ロス、プラスチック、3R、紙など）

実施手法	推進主体
1-1-2 担い手づくりに向けた取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度の取組方針・内容
ごみ減量サポーターの活動支援	2回	5回	・ごみ減量サポーターが中心となって地域で活動できるよう支援し、地域内でごみ減量の意識が高まることをねらいます。
町田市3R市民リーダーの活動支援	3回	3回	・町田市3R市民リーダーが行う啓発活動を支援し、市民どうしでごみ減量の意識を高めあうことをねらいます。また、イベント出展以外の啓発活動支援について検討します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
サポーターとリーダーの役割がはっきりしない。明確にすることによって活動が活発化するのではないかと。また、両者が協力して行うことができる事業についても検討してみてもどうか。	ごみ減量サポーターは、自治会町内会より推薦を受け、市が委嘱し地域でのごみ減量の活動の中心となっていただく方です。 3R市民リーダーは公募によりイベントなどごみ減量啓発の担い手になっていただく方です。 将来的には、ごみ減量の啓発を自主的に進められるよう養成に努めているところです。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>・ごみ減量サポーターの活動支援として以下のことを行いました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 8月に委嘱式と同時に、清掃工場の現状を見ていただくことと地域で見学会を企画していただくため町田市バイオエネルギーセンターの見学会を実施しました。 10月に、啓発活動の参考としていただくためごみの減量、3Rの推進に係るパンフレット・資料等を5種類送付しました。 12月に、ごみ減量に関する講演会を開催し、地域でどのようにごみ減量に取り組みばいいかなどを知るきっかけの場としました。(講師にお笑いコンビマシガンズの滝沢秀一氏を招き、ユーモアを含めながら、ごみ減量の講演会を行ったことで、参加者86人中85人の方から、参加してよかったと回答いただきました。) 2月に、ごみ減量サポーターの活動の意見を伺うため、活動アンケートを実施しました。 3月に、リサイクル広場の利用促進の資料として、リサイクル広場のパンフレットを地域で回覧用していただくように配布しました。 <p>・町田市3Rリーダーの活動支援として、10月15日に「さんあーる広場」、3月5日に「まちだE C O t o フェスタ」、3月11日に「木曾山崎センターまつり」の各イベントにおいて、ごみの減量と分別の啓発活動の場を提供しました。</p>	

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度の取組方針・内容
ごみ減量サポーターの活動支援	5回		活動アンケート記載事項の結果、ごみ減量サポーターとして何をすればよいかわからないとの意見が散見されました。そのため、2023年4月3日町内会・自治会長宛の推進員の推薦届には、具体的な活動例を写真を入れて送付します。引き続き講演会や啓発資料の送付等を行い、随時どのような支援が必要かをアンケートで聞き取りし、活動支援を実施していきます。
町田市3R市民リーダーの活動支援	3回		2023年度はイベント出展が増えてくると見込まれるので3R市民リーダーの研修会を実施し、自主的なごみ減量啓発を目指し企画・立案できるようにスキルアップを図ります。

実施手法	推進主体
1-2-1 飲食店・スーパー・百貨店等の事業者との協働による取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度取組方針・内容
リサイクル推進店と協働して行うキャンペーンの展開	5回	5回	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル推進店と連絡を密に取り、賞味期限、消費期限などをPRすることができないか検討実施します。 ・まちだ☆おいしい食べきり協力店の主旨、制度などを飲食店、小売店等にPRし、主体的に取り組んでいただく店舗の増を目指すとともに、各店舗の取組を市民にPRし認知してもらうことで、食べきり協力店に認定されることを小売店等がメリットと感じられることを目指します。
食べきり協力店制度の認知	随時	実施	

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
事業者向けゴミ減量セミナーの実施をバイオエネルギーセンターで実施し、見学もカリキュラムに入れてはどうか。	事業者に向けたごみ減量啓発は力を入れているところです。事業者向けごみ減量セミナーについては実施に向けて検討します。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル推進店との協働について、10月の食品ロス削減月間にリサイクル推進店5店舗の店頭において食品ロス削減キャンペーンを実施し、来客された約1,500名の方に食品ロス削減啓発チラシと景品の配布、また、ごみ減量の取組みについてのアンケート調査を行いました。 ・まちだ☆おいしい食べきり協力店について、7月と10月に新規に2店舗認定し、Twitter、Instagram、町田市公式ホームページ、まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」9月15日号・「エコまちだ」1月15日号で新規の店舗を紹介するとともに、おいしい食べきり協力店があること、協力店を募集していることをPRしました。 		

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度取組方針・内容
リサイクル推進店と協働して行うキャンペーンの展開	5回		10月の食品ロス削減月間や年末年始の「まちだ☆おいしい食べきりキャンペーン」などさらに食品ロス削減の強化を図ります。
食べきり協力店制度の認知	随時		引き続き、まちだ☆おいしい食べきり協力店の主旨、制度などを飲食店、小売店等にPRし、主体的に取り組んでいただく店舗の増加を目指すとともに、各店舗の取組を市民にPRし認知してもらうことで、食べきり協力店に認定されることを小売店等がメリットと感じられることを目指します。また、町田市商工会議所の協力を得ながら事業を進めます。

実施手法	推進主体
1-2-2 スポーツチーム・教育機関等団体との協働による取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度の取組方針・内容
ホームタウンチームと連携した取組	7回	7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみに興味のない市民にとってごみ減量を身近なこととして捉えてもらえることを狙って、市民にとって親しみのあるFC町田ゼルビア、ASVペスカドーラ町田などのホームタウンチームと引き続き連携します。
大学と連携した取組	2回	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみに関する研究を行っている麻布大学などと連携し、若い世代からごみ減量に関する情報を発信してもらえるような取組を検討します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
<p>スポーツチームとの協働推進はさまざまな人たちにごみ減量の大切さを理解してもらいチャンスであると思う。特に観戦する人たちへの啓発は重要であり、観戦の場を離れてもごみ減量への意識が継続できるのではないかと。選手たちのメッセージなどにも期待したい。</p>	<p>ごみ減量に関する選手からのメッセージの発信について、ホームタウンチームと協議し、PRに貢献してもらおうと進めます。</p>

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームタウンチームと連携して、5月29日にFC町田ゼルビアホームゲームでマイボトルキャンペーン、4月～5月にゼルビアキッチンで2回古紙回収時にごみの資源化やごみから発火する火災防止のためのごみ分別PRを行いました。イベントではFC町田ゼルビア、ペスカドーラ町田とさんある広場、ペスカドーラ町田とホームゲームでのマイボトルキャンペーンを実施し、多くの方に啓発をすることができました。 ・大学との連携の取組として、8月25日にFC町田ゼルビアホームゲーム企画「クイズラリーゼルビアクエスト」について内容を一緒に検討しました。また、マイボトルOK店の現状を把握するため、麻布大学と協働し登録店舗にアンケートを実施しました。大学生からマイボトルOK店は良い取り組みだが、周知方法を検討した方がいいなどの意見をいただきました。 	

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度の取組方針・内容
ホームタウンチームと連携した取組	3回		引き続きマイボトルキャンペーンなどホームタウンチームと連携して取り組みます。
大学と連携した取組	2回		マイボトルOK店や分別アプリについて麻布大学、桜美林学園と周知方法や啓発方法を研究します。また協働でイベントを行い、若い世代のごみ減量意識の向上を図ります。

実施手法	推進主体
1-3-1 地域が行う取組の支援	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度の取組方針・内容
地域リサイクル広場の支援	検討	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・現在開催されている地域リサイクル広場の開催の支援を継続するとともに、ノウハウや成功例について地域から情報収集します。また、新たな地域リサイクル広場の開催や来場者数の増加のため、ごみナクナーレやSNSで周知します。
生ごみ資源化団体の支援	周知	未実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの減量に自主的に取り組んでいる団体の活動を支援するとともに、その活動を多くの市民に周知し、新たな参加者が生まれるような仕組みを検討します。 ・生ごみ資源化団体の調査を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
リサイクル広場の成功例や体験談などをもっとPRしたほうが良いのではないか。	成功例や体験談を聞き取り、広報誌やSNSを利用して周知します。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域リサイクル広場については、以下の取組を行いました。 1. まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」9月15日号で、響きの丘町内会の地域リサイクル広場の記事を紹介 2. 2022年12月に、地域リサイクル広場の町田市公式ホームページを更新し、希望する町内会・自治会の地域リサイクル広場の開催日を新たに掲載 <p>広報紙やホームページで地域リサイクル広場の現状を紹介し市民に周知することで、取り組み団体の継続した地域リサイクル広場開催への機運の醸成を図り、加えて新たな地域リサイクル広場開催へ繋がるよう取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ資源化団体3団体中2団体と連絡することができましたが、支援の申し出はありませんでした。 	

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度の取組方針・内容
地域リサイクル広場の推進	3回		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る影響が逡減すると予測される中、市と地域リサイクル広場開催の協定を結んでいる団体に対し、開催の支援・情報提供等を通じて、地域リサイクル広場の開催を促します。 ・地域リサイクル広場の認知度の向上を高め、新規に地域リサイクル広場を開催する団体を模索します。
生ごみ資源化団体の支援	周知・支援		資源化団体と協定については、協定締結から年月が経過していることから、必要な支援について団体と話し合い、協定に基づく支援等について見直しを行います。

実施手法	推進主体
1-3-2 事業者が行う取組の支援	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度取組方針・内容
フードドライブの支援	周知	周知	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者が行っているフードドライブについて情報収集し、広く周知することで活動の輪を広める仕掛けを行います。 ・主に市内業者が行っているCSR（社会をよくするためのボランティア）のうち、特にごみ減量に関する活動について情報収集し、広く周知することで、市民のごみ減量意識の向上に寄与する取組を検討します。
企業CSRの周知	周知	周知	

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
<p>フードドライブの実施状況や何がどのくらい入荷し、どこの団体にどうなったか詳しく知りたい。提供する側、される側どちらにとってもメリットになることで、見えない貧困やフードロスを削減できる重要な取り組みではないか。</p>	<p>食品ロスの削減に向けて、フードドライブを実施している団体から情報収集を行います。</p>

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
△	
取組経過・1年間の総括	
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスに向けた取り組みの一環として、大規模事業所への立入り時に、災害備蓄品等を廃棄せず、フードドライブを活用し有効利用していただけるルートについて周知を行いました。実際の取り組みには至りませんでした。 ・企業CSRについては、自社で廃棄物の適正処理や資源化に積極的に取り組んでいる事業所を表彰する2022年度まちだ3R賞（市長賞）を受賞した4事業所の取組事例を町田市ホームページやSNSで情報発信を行い、企業のイメージアップやPRを行うことができました。 	

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度取組方針・内容
フードドライブの周知	周知		大規模事業所立入り時に周知していきます。
企業CSRの周知	周知		まちだ3R賞が事業所にとって魅力ある賞になるよう、継続して周知していきます。

実施手法	推進主体
1-3-3 各種情報ツールを活用した情報発信	環境政策課

【指標と目標値】

【事業計画】

指標	2022年度目標	2022年度実績	2022年度の取組方針・内容
町田市ホームページ等による情報発信	随時	20回	・町田市ホームページやごみ分別アプリを利用して、ごみ量の現状や、ごみの適正排出に関する情報発信を行うことで、分別の周知徹底を図ります。また、情報発信等により、ごみ分別アプリの普及率向上に努めます。
SNS、動画、メール配信	随時	248回	・Twitter、InstagramなどのSNS、メール配信や、YouTubeなどの動画配信により、多くの市民に関心を持ってもらえるよう、季節や社会的に話題となっている内容など検討し情報提供を行います。
チラシの配布や啓発看板の設置による情報提供	随時	2回	・チラシの配布や啓発看板の設置による情報提供を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
SNSによる発信は誰にどのような目的で発信するのかを明確にすべきだと思ふ。また、その発信によって行動に移した市民にインタビューを行っても良いのではないかと。	広報誌などの紙媒体を見なくなっている主に若い世代をターゲットとし、ごみ減量の周知を目的としています。イベントでSNSを見て参加されたとの声もいただいています。今後は、その方々からさらに聞き取りを行います。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	○
<p>・ホームページは全てのページの見直しを行い、以前よりページの統一感や古い情報の削除などをすることで分かりやすいように更新しました。イベント情報は夏休みの親子向け講座などの計9回配信しました。イベント情報やごみ減量アイデアなど旬の情報（引越し時期のごみの捨て方など）をSNS244回、動画3回、メール配信1回で発信しました。</p> <p>・ごみ分別アプリでの情報発信を11回行いました。また、利用しやすいように、ごみの分別検索機能の更新を行いました。</p> <p>・チラシについて、7月15日（金）～8月11日（木）に市内8つの図書館でSDGs環境分野に関連する児童書の特集本コーナーを設置し、ごみ分別アプリ、まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」、Twitter・InstagramのQRコードを記載した名刺カードを1,010枚配布しました。結果として、ごみ分別アプリのダウンロード数は前年同月比114.6%（2022年度1,120回・2021年度977回）となりました。また各種イベントに参加した際に啓発用雑がみ袋を活用し配布しました。</p> <p>・新たに生ごみ処理機を販売している店舗に補助金があることがわかるポスターやPOPを掲示し、生ごみ処理機による生ごみ減量に興味を持っていただけるようにしました。</p>	

【2023年度の指標と目標】

【2023年度の事業計画】

指標	2023年度目標	2023年度実績	2023年度の取組方針・内容
SNS等による情報発信	210回		内容を精査しながら年間を通じて随時発信します。市民にごみの分別やごみの減量方法が分かりやすく伝わるよう、役立つ情報を発信します。SNS192回、分別アプリインフォメーション12回、YouTube6回
まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」発行	2回		市民や団体、事業者のごみ減量、3R推進に関する優れた取り組みを取り上げて、広く周知します。

取組施策	推進主体
2-1-1 生ごみの発生抑制	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1	食品ロスの削減を総合的に推進する取組					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2回	2回	2回	2回	2回
実績値	—	2回	2回			
指標①-2	補助金を申請した家庭用生ごみ処理機の利用台数（累計）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		1,200	1,400	1,600	1,800	2,000台
実績値	773台	1,278	1,525			

【事業計画】

2022年度取組方針・内容
<p>①-1・食品ロスの削減を総合的に推進する体制づくりを目指し、より多くの市民が利用できるよう、フードバンクやフードドライブを行っている団体との連携等を検討します。</p> <p>①-1・食品ロス削減推進計画の策定に向け、先行自治体等の調査・情報収集を行い、施策の方向性を検討します。また、計画の基礎となる骨子を策定します。</p> <p>①-1・賞味期限、消費期限を正しく理解していただいで期限内に食べきってもらおうこと等、食品ロスの削減につながる情報収集を行い、町田市ホームページやSNSを活用し周知を行います。</p> <p>①-2・生ごみを家庭で自家処理する方法として、生ごみ処理機やダンボールコンポストの拡充について、広報誌、SNS等や販売店でPRを強化し、家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度の利用を推進します。</p> <p>①-2・生ごみ処理機から出た一次生成物の利用について情報提供できるよう検討します。</p> <p>①-2・生ごみ処理機等購入補助制度利用者アンケートをとり、事業効果を検証します。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
家庭用生ごみ処理機の補助制度について、生ごみ処理機購入後の利用状況を定期的に調査し、事業効果を測定すべきではないか。	補助対象者からのアンケート結果をもとに、事業効果の検証を行います。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
<p>①-1・（仮称）食品ロス削減推進計画の策定に向け、庁内関連部署の取組状況や先行自治体の事例を確認し、計画の骨子及び素案を策定しました。</p> <p>①-1・食品ロスの削減を総合的に推進する体制づくりを目指し、2月1日から市庁舎窓口でフードドライブの受付を開始しました。また、町田市バイオエネルギーセンターで開催した「まちだECotoフェスタ」では、フードドライブの周知をするともに、食品ロスに関するアンケートを行いました。アンケート結果から、市民センター等市民が食品を持ち込みやすい場所に常設のフードドライブ受け取り窓口が求められていることがわかりました。</p> <p>①-1・家庭やお店で忘年会、新年会が増える12月から1月にかけて、市内で走るバスでデジタルサイネージによる食品ロス削減の広告の掲載やスーパーなどの店舗でおいしい食べ切りキャンペーンを行いました。</p> <p>①-2・家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度について、まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」9月15日号に掲載しました。また、2月に市内電器店やホームセンター等35店舗に協力いただき、補助金の啓発ポスターやポップを配布しました。</p> <p>2021年から販売経路を確保したダンボールコンポストの補助申請が24件と増えています。引き続き取り組みやすいダンボールコンポストの啓発を進めました。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度取組方針・内容
<p>①-1・（仮称）食品ロス削減推進計画を策定します。また、計画に位置付けた施策について、庁内関連部署や民間事業者と連携し、取組を実施していきます。</p> <p>①-1・食品ロスの削減を総合的に推進する体制づくりを目指し、より多くの市民がフードドライブに参加できるよう、市内施設での常設窓口の拡充を目指します。</p> <p>①-1・引き続き食品ロス削減について、バスでのデジタルサイネージでの広告を行います。</p> <p>①-1・民間の企業と協働して、食品ロス削減の啓発を行います。</p> <p>①-2・家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度について、生ごみ処理機取扱い店舗の情報を収集し、引き続き周知協力店を増やしてPRを強化することで、家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度の利用を推進します。</p> <p>①-2・生ごみ処理機等購入補助制度利用者からいただいたアンケート結果をもとに、事業効果を検証します。</p> <p>①-2・家庭用生ごみ処理機でどのぐらいごみの減量になるか数値化し、ホームページなどで公表します。</p>

取組施策	推進主体
2-2-1 プラスチックごみの発生抑制	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1	使い捨てプラスチック代替品に関する情報発信回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	10回	13回	17回	20回
実績値	—	5回	5回			
指標①-2	マイボトルが利用できる店舗数（累計）					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		32店	35店	40店	45店	50店
実績値	31店	31店	31店			

【事業計画】

2022年度取組方針・内容
<p>①-1・使い捨てプラスチック代替品については、情報発信（SNSなど）をします。また次年度に向けて、それ以外での媒体でも発信ができないか検討します。</p> <p>①-2・マイボトル利用可能店については、新規店舗募集の告知（市公式ホームページなど）を行います。また次年度に向けて、それ以外の方法でも店舗数を増やせる取組がないか検討します。</p> <p>・公共施設に給水スポットの設置を検討します。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
マイボトル、マイバシ(箸)、マイスプーン等持ち歩くことが当たり前のことと思える、それが社会貢献していることと思える社会にしてほしい。	一人ひとりのちょっとした心がけで、ごみ減量、環境保全ができることを、引き続き啓発してまいります。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①-1・使い捨てプラスチックの代替品に関する情報として、ごみ分別アプリ1回（マイボトルを持ち歩こう）、ホームページ1回（ペットボトルの再資源化）、Twitter、Instagram各1回（ウォーターサーバー設置）発信しました。また、親子向けにプラスチックの3R講座及びプラスチック資源化施設見学会を開催して啓発しました。</p> <p>・3月25日にプラスチックの3R講座を開催し、特にペットボトルのリサイクルについて、分別をどのようにすれば質の良いリサイクルが行われるかを知ってもらい、分別や資源化の啓発を行いました。</p> <p>①-2・麻布大学と協働してマイボトルOK店ガイドブックについて見直しました。</p> <p>①-2・マイボトルOK店ガイドブックの情報を更新し市内公共施設に配布しました。</p> <p>①-2・マイボトルの利用促進およびペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進する取組みとして、2022年5月11日にウォータースタンド㈱と「プラスチックごみ削減の推進に関する協定」を締結し、市庁舎をはじめとした市内公共施設にマイボトル専用給水器を11台設置しました。また、給水スポットや給水量の記録ができるアプリ「mymizu」を導入し、マイボトルの利用促進に努めました。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度取組方針・内容
<p>①-1・使い捨てプラスチック代替品についての啓発手段については、ごみ分別アプリ、ホームページ、Twitter、Instagramを主体の媒体として情報発信していきます。内容については、「使い捨てプラスチックをもらわない」をテーマにした情報発信を新たに行います。</p> <p>①-2・マイボトルの利用促進およびペットボトル等のプラスチックごみの削減を推進するため、マイボトル専用給水器の使用量および温室効果ガス削減量をホームページで公開し、給水器使用による削減効果の周知を図ります。</p>

取組施策	推進主体
2-2-2 プラスチックごみの資源化の推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	容器包装プラスチック分別協力率（回収地域）						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			27%	30%	33%	36%	40%
実績値		24%	37% (実績値)	35% (推計値)			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・プラスチック全般についてや、分かりにくい容器包装プラスチックの分別について、その時々々の旬な情報を取り入れることに留意して、説明会、出前講座等を通じて周知を図ります。</p> <p>①・回収した容器包装プラスチックのリサイクルについて周知を図ることで、分別意欲の向上を図ります。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
容器包装プラスチックの説明は難しいが、どのような工夫を考えているか。	実物を張り付けたボードの使用やクイズ形式での説明などの工夫を行っています。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①・容器包装プラスチック収集対象地域の小学校で実施した「ごみと環境の出前講座」では、回収の対象となる容器包装プラスチックの分別方法や収集されたプラスチックがどのようなものにリサイクルされるかなどについて説明しました。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・プラスチック全般についてや、分かりにくい容器包装プラスチックの分別について、その時々々の旬な情報を取り入れることに留意して、説明会、出前講座等を通じて周知を図ります。</p> <p>①・回収した容器包装プラスチックのリサイクルについて周知を図ることで、分別意欲の向上を図ります。</p>

取組施策	推進主体
2-3-1 リデュース・リユースの推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1	リデュースに関する情報提供回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	8回	12回	16回	20回
実績値	2回	4回	9回			
指標①-2	リユースにつながる取組の実施回数					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		3回	4回	6回	8回	10回
実績値	3回	13回	14回			
指標①-3	粗大ごみのうち再生販売した重量					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		75 t	150 t	100 t	125 t	150 t
実績値	74 t	57 t (実績値)	76t (実績値)			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①-1・Twitter、InstagramなどのSNS、メール配信や、YouTubeなどの動画配信により、多くの市民に季節や状況に応じた情報提供を行います。</p> <p>①-2・子ども用リユース品事業については、新型コロナウイルスの流行状況を確認しながら実施します。リユース業者との連携については、取り組んでいる事業者の情報をなるべく収集し、連携の可能性を引き続き検討します。</p> <p>①-3・粗大ごみ再生品を購入してもらいやすくなる仕掛けについて検討するとともに、より多くの粗大ごみを再生品として活かすことができるような取組を行います。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
高齢化による家財整理での使える物の有効活用を。	現在、市民が直接、清掃工場に持ち込んだ粗大ごみは再生販売を行っておりませんが、今後はこれらも再生販売で活用できるよう検討を行います。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①-1・Twitter、Instagramでマイボトルの使用促進などリデュースに関する情報発信を行いました。</p> <p>①-2・子ども用リユース品事業について、10月から12月に大型ベビー用品・服飾雑貨、玩具等の回収会と配布会を子どもセンター等で各5回実施しました。また3月のまちだEco to フェスタで追加配布しました。「まちエコフリーマーケット」について、9月、12月と3月のまちだEco to フェスタでの実施を支援しました。</p> <p>①-3・粗大ごみの再生販売については、広報誌による周知やマスコミの取材による放映により、数量が前年度を超える数字になりました。</p> <p>また、株式会社ジモティーとリユースの促進についての協定を結び、粗大ごみ再生販売店にどのようなものがあるか見ることができるようになりました。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①-1・SNS,YouTube配信では計画的にテーマ別に発信を行います。</p> <p>①-2・子ども用リユース品事業の実施や「まちエコフリーマーケット」実施の支援について、引き続き行います。</p> <p>①-3・粗大ごみ再生販売については、引き続き広報誌やジモティー掲示板を利用して周知を進めます。また、さらに民間の力を利用した粗大ごみの削減に努めます。</p>

取組施策	推進主体
2-3-2 リサイクルの推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①		雑がみの分別に関する情報提供回数				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	10回	13回	17回	20回
実績値	5回	7回	13回			

指標②		リサイクル広場来場者数				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		31,000人	32,000人	33,000人	34,000人	36,000人
実績値	30,329人	19,250人	25,904人			

指標③		小売店独自の店頭回収の情報提供回数				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		4回	8回	12回	16回	20回
実績値	-	0回	0回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・雑がみ分別については、古紙業界の状況にも左右されることが多い中、影響の少ない部分の分別ルールを中心に周知を図ります。</p> <p>②・リサイクル広場についてさらに周知し、多くの人に取組を知ってもらうとともに、地域リサイクル広場の新たな担い手を発掘し、開催場所を増やすことで、来場者数の増加につなげます。SNS等による周知の強化を行います。</p> <p>③・リサイクル推進店等独自に資源回収を行っている小売店の取組について、さまざまな媒体を利用して周知します。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
リサイクル広場の取組みについてのPRが必要ではないか。まだまだ存在を知らない市民が多い。SNSを使ったPRの強化に期待する。	SNSなどによる周知の強化を図ります。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①・雑紙の分別に関する情報発信として、ごみの出し方ガイド、ごみ分別カレンダーの配布のほか、転入者やイベントの来場者へ雑紙袋を配布し分別の協力を呼びかけました。また、町内会向け出前講座でも周知を行いました。</p> <p>雑がみの分別については、イベントで雑がみ袋を配布し、分別の協力を呼びかけるとともに、ごみの出し方ガイド、ごみ分別カレンダー、転入者へ雑がみ袋を配布及び町内会向け出前講座でも周知しました。</p> <p>②・リサイクル広場の周知については、まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」9月15日号で地域で取り組むリサイクル広場の紹介や12月に町田市公式ホームページを更新しました。広報紙やホームページで市民にリサイクル広場で回収している品目等をあらためて周知を図りました。3月には、ごみ減量サポーターにリサイクル広場のパンフレットを配布し、町内会・自治会の回覧板で地域住民への周知を促しました。その結果、リサイクル広場来場者は前年度比較で約6,500人増加となりました。</p> <p>③・独自の資源回収の取組について、小売店事業者1社に対してヒアリングを行いました。市民への情報提供には至っていません。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・雑がみの分別については、メモ用紙などに資源化できることなどを引き続き各種媒体を使って周知を図ります。</p> <p>②・リサイクル広場については、より目につくようにパンフレットのデザインを一新します。またごみ減量サポーターを通じて各町内会・自治会への周知を行います。広報媒体を使った情報発信については、「リサイクル広場では指定収集袋に入れなくても無料で対象品目を持ち込めること」、SDGsへの関心が高まる社会情勢の中、「リサイクルを通じて将来の地球にやさしい広場であること」を明記します。</p> <p>③・小売店独自の店頭回収については、引き続き情報を収集し、市民の方に利用してもらえるよう周知します。</p>

取組施策	推進主体
2-4-1 家庭系ごみ処理手数料の見直しの検討	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	検討の実施						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	見直し (完了)
実績値		—	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・ごみの減量化と資源化率向上、ごみ処理費用負担の公平化のため、町田市では2005年より指定収集袋制による家庭系ごみの有料化を実施しています。社会情勢等を踏まえたごみ袋の価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行います。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
<p>家庭ごみの処理手数料の見直しについては、こういった方向に進む予定なのか。</p>	<p>周辺自治体の手数料や社会情勢等をふまえ、増額・減額のどちらも含めて検討を行います。</p>

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①・周辺自治体の手数料の変動について情報収集を行いました。多摩地域については、2022年度に新たに1市が有料化を開始し、全26市が有料化を導入しました。</p> <p>①・今後の見直しを見据えて、周辺自治体の情報収集等を継続して行っていく必要があります。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・ごみの減量化と資源化率向上、ごみ処理費用負担の公平化のため、町田市では2005年より指定収集袋制による家庭系ごみの有料化を実施しています。社会情勢等を踏まえたごみ袋の価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行います。</p>

取組施策	推進主体
3-1-1 適正排出に向けた取組の推進	環境政策課

【指標と目標値】

指標①-1		指導の回数（大規模事業所、搬入物検査に基づくもの等）				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		120回	130回	130回	130回	130回
実績値	125回	94回	75回			

指標①-2		講習会の回数（排出事業者向け、許可業者向け）				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		2回	2回	2回	2回	2回
実績値	2回	2回	3回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容	
<p>①-1・60件の大規模事業所に対して指導を行います。</p> <p>①-1・内容物検査を240回実施します。不適正搬入等の情報をもとに、排出事業者・許可業者への訪問指導を実施します。</p> <p>①-1・新工場での内容物検査の体制等について、運営事業者（SPC）と継続して協議します。</p> <p>①-2・適正搬入に対する理解を深めていただけるよう事業系廃棄物に関する講習会を実施していきます。</p> <p>①-2・排出事業者、許可業者双方を対象にして講習会を行います。</p> <p>①-2・排出事業者に対し、廃棄物に関する理解を深めてもらうよう、継続して周知していきます。</p>	

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
訪問指導や対面での講習会など、実際に事業者と会って指導ができる機会を増やした方がよい。	実際にごみを排出している事業者への指導を行わなければ効果が見込めないため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施できなかった訪問指導を感染防止に努めながら実施します。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①-1・大規模事業所への立入り指導は、新型コロナ感染予防のため学校、病院、特別養護老人ホームを除外したため43件、内容物検査で不適物が確認された事業所に対し32件指導を行いました。今年度初めての取組みとして、東京都環境公社と連携して一般廃棄物、産業廃棄物、資源化物等の多方面から効果的な指導を行うことができました。また、工場内での内容物検査は、運営事業者と連携し年間を通して210件実施し、不適正排出が認められた事業所に対し電話による指導を行い、適正排出に向けた意識改革を促すことができました。しかし、廃棄物の出方にはバラつきがあるため、継続的に指導啓発をしていく必要があります。</p> <p>①-2・7月と12月に事業者向けの研修を行い、廃棄物処理に関する内容や町田市バイオエネルギーセンターの役割を周知しました。また、2月には、排出事業者と収集運搬許可業者合同で廃棄物講習会を開催し、79事業所の方々に出席いただき廃棄物処理・再利用計画・収集運搬・災害廃棄物処理等について説明を行い、事後のアンケート結果から内容について概ね理解いただく事が出来ました。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容	
<p>①-1・計画的に大規模事業所への立入り指導を実施し、より効果的な指導・啓発ができるよう取組んでいきます。また、廃棄物処理に関する有用な情報が提供できるよう努めていきます。一般廃棄物と産業廃棄物の区別を理解していない事業者がいることから、根気強く指導を継続していきます。</p> <p>①-2・大規模事業所立入り時に廃棄物処理等に関する研修の案内を継続し、実際に研修を行っていただけるよう周知していきます。また、収集運搬許可更新の年にあたるので、廃棄物講習会時にわかり易い説明ができるようにしていきます。</p>	

取組施策	推進主体
3-1-2 優良事例の公表・拡大	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	表彰した事業者数（累計）						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			4者	10者	14者	16者	18者
実績値		2者	8者	12者			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①・「まちだ3R賞」賞状贈呈基準や申請書の書式等を見直し、申請受付、審査、賞状贈呈を行います。 ①・2021年度に表彰した事業所等の情報をホームページや環境広報紙ECOまちだ等で周知します。 ①・2021年度受賞事業所へのヒアリング結果も参考にインセンティブを検討します。 ①・受賞した事業者が適正排出の手本になるよう、適正排出について周知していきます。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
優良事業者の表彰について、認知度向上策が必要ではないか。また、インセンティブについても、具体的な検討が求められる。	受賞した企業と意見交換を行い、インセンティブ等の検討をしていきます。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
	◎
取組経過・1年間の総括	
①・2022年度のまちだ3R賞は、3月24日に4事業所へ賞状贈呈を行いました。目標に掲げている累計10者を上回り12者とすることができました。 ①・2021年度まちだ3R賞受賞事業所の情報を広報、ホームページ、SNS、ごみカレンダーに掲載し周知しました。また、受賞事業所との懇談会を11月に開催し情報共有の場として輪を広げていくことができました。また、2事業所に3月のまちだECOtoフェスタに出展していただくとともにステージでの自社PRをしていただき、多くの来場者に周知することができました。 ①・大規模事業所立入り時に幅広く周知を行い、昨年に引き続き申請された3事業所と、新規に1事業所から申請を受け賞状贈呈をすることができました。 ①・まちだ3R賞の申請は無かったが優れた取組みをしている事業所に対し、今年度新たに準まちだ3R賞を創設し、4事業所に賞状の贈呈を行うことができました。これをきっかけに引き続き有用な取組みを実践していただき、次年度のまちだ3R賞の申請につなげていけるよう周知しました。	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
①・引き続き大規模事業所立入り時にまちだ3R賞について周知を行い、事業所にとって申請する事にインセンティブが感じられるような取組みを行っていきます。 ①・2022年度は各種広報への掲載や準まちだ3R賞創設等行うことができたので、2023年度は更に効果的な取組みができるよう検討していきます。

取組施策	推進主体
3-2-1 公共施設から排出される事業系ごみの削減	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	排出される事業系ごみの削減率						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			2%削減	4%削減	15%削減	15%削減	15%削減
実績値		—	1.9%削減	13.7%削減 (実績値)			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減に向け、全職員を対象とした研修を実施します。また、市庁舎から排出されるごみ量の傾向を分析・調査し、効果的な啓発を検討します。また、紙の使用量削減に向け、職員に対し啓発を行います。</p> <p>参考数値： 2019年度実績値 市庁舎 総ごみ量：147.4 t 廃棄物：11.3 t 資源物：136.1 t（溶解分78.2 tを含む） 2021年度実績値 市庁舎 総ごみ量：144.6 t 廃棄物：13.7 t 資源物：130.9 t（溶解分55.8 tを含む）</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
市庁舎の総ごみ量が減少していることは評価できますが、内訳として廃棄物が年々増加している原因を調査し、対策を講じる必要があるのではないかと。	市庁舎から排出されるごみについて、ごみ量の傾向を調査・分析するとともに、庁舎管理部門と連携し、啓発やごみ量削減に向けた取組を検討します。 特に、廃棄物に混入している資源化できる紙類を資源に分別できるよう啓発を強化します。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	◎
取組経過・1年間の総括		
<p>①・市庁舎内の課から排出された燃やせるごみ（事業系一般廃棄物）の組成調査を2回実施しました（8月19日、2月8日）。組成調査の結果から、燃やせるごみの袋の中に資源化できる紙類が多く含まれていることがわかったため、調査結果及び雑がみ類の分別方法を職員に周知しました。また、分別だけではなく、紙の出力枚数は必要最低限にするよう呼びかけを行いました。</p> <p>①・全職員を対象とした研修（e-ラーニング）で、紙の分別方法及び使用量削減の啓発を行いました。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・市で管理している施設から排出される事業系ごみの削減に向け、全職員を対象とした研修を実施します。また、市庁舎から排出されるごみの調査・分析を行い、効果的な啓発を検討します。また、紙の使用量削減に向け、職員に対し啓発を行います。</p> <p>参考数値 : 2019年度実績値 市庁舎 総ごみ量：147.4 t 廃棄物：11.3 t 資源物：136.1 t（溶解分78.2 tを含む） 2022年度実績値 市庁舎 総ごみ量：127.2 t 廃棄物：11.2 t 資源物：116.0 t（溶解分55.0 tを含む）</p>

取組施策	推進主体
3-2-2 事業系生ごみの削減	環境政策課

【指標と目標値】

指標①		フードバンクに関する情報提供団体数				
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		3団体	3団体	3団体	4団体	5団体
実績値	2団体	4団体	1団体			

指標②		食べきり協力店認定数（累計）				
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		10店	15店	20店	60店	100店
実績値	5店	8店	10店			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容	
<p>①・フードバンクに関しては、地域が行うもの、事業者が行うものについて情報収集し、ホームページや広報紙などを通じて情報提供します。</p> <p>②・食べきり協力店については、他店舗にもメリットがわかるようにし、取組を進めていただける協力店を増やします。SNSの活用も検討します。</p> <p>排出事業者へ有用な情報を提供し、更なる生ごみの削減に向けた取り組みを図っていきます。</p>	

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
食べきり協力店の取り組みについて、飲食関係の営業許可を担っている町田市保健所との連携を検討してはどうか。	現在、食育という観点で保健所と連携していますが、さらなる連携について検討します。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①・大規模事業所立入り時に、43事業所に対しフードバンクの取組みについて周知しましたが、実施に至った事業所はありませんでした。</p> <p>②・食べきり協力店については、2店舗増やすことができました。その情報を町田市ホームページやTwitter、Instagram、まちだごみ情報誌「ごみナクナーレ」9月15日号で紹介をしました。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容	
<p>①・継続して事業所訪問時に食品ロスやフードバンク等に関する情報提供や他事業所の取組みを周知していきます。また、保健所との連携についても検討していきます。</p> <p>②・食べきり協力店については、引き続き増やせるよう情報を収集します。また、協力店になっていただくためには、経営者の方に協力店になるメリットを感じていただく必要があります。メリットの一つとして多くの方が店舗を利用することがあると考えられるため、各種媒体で協力店の周知を行います。</p> <p>また、町田市商工会所の協力を得ながら事業を進めます。</p>	

取組施策	推進主体
3-2-3 事業系紙類の減量・資源化	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	周知啓発活動の実施回数						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			10回	10回	10回	10回	10回
実績値		—	7回	10回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①・事業系紙類減量の周知啓発方法について情報収集および検討を行い、具体的な周知を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
廃棄物資源の適切な分別を行っている取組例・先進企業を紹介してはどうか。	3R 賞受賞企業等の紹介をしていきます。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
<p>①・内容物検査において、事業系の資源化可能な紙類の混入が多く認められていることから、問い合わせがあった事業所へは紙問屋を紹介し資源化してもらうよう促しました。一方で、「少量の紙だから資源化しにくい」との理由から事業系一般廃棄物として排出されている事業所に対し、電話にて工場への搬入ではなく、資源化するよう指導しました。</p> <p>・市内事業所の駐車場等で紙資源回収が出来ないか検討を行いました。実現には至りませんでした。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・内容物検査で資源化可能な紙類の混入が認められた事業所に対し、資源化に誘導していくため継続的に周知し、一般廃棄物への混入があった事業所へは指導を行っていきます。また、適正排出に向けた取組みとして、市内事業所に回収場所の協力をいただき紙資源が回収可能か検討を継続していきます。</p> <p>①・まちだ3R賞受賞事業所は、既にペーパーレス化や資源化の推進を実践しているので、その取組み方法や内容について他事業所の参考にしていただけるよう周知をしていきます。</p>

取組施策	推進主体
3-3-1 事業系ごみ処理手数料の見直し検討	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	検討の実施						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討	見直し (完了)
実績値		—	情報収集 見直しの検討	情報収集 見直しの検討			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・ごみの減量・資源化の推進を目的として、事業系ごみ処理手数料を2015年度に改定（値上げ）しています。社会情勢等を踏まえた価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行います。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
<p>ごみ処理手数料の見直しを積極的に進めるべき。</p>	<p>社会状況や中小企業対策等を考慮し、近隣市町村の価格を参考にしながら、見直しの検討を行ってまいります。</p>

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①・周辺自治体の手数料の変動について情報収集を行いました。多摩地域以外の近隣市についても情報収集を行いました。多摩地域、それ以外の近隣市について、2022年度に料金の改定を行った自治体はありませんでした。</p> <p>①・今後の見直しを見据えて、周辺自治体の情報収集等を継続して行っていく必要があります。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・ごみの減量・資源化の推進を目的として、事業系ごみ処理手数料を2015年度に改定（値上げ）しています。社会情勢等を踏まえた価格水準の妥当性の分析を行うとともに、周辺自治体の手数料等について情報収集を行います。</p>

取組施策	推進主体
4-1-1 環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備・運営	循環型施設管理課

【指標と目標値】

指標①	発電効率					
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)	17%以上 (新焼却施設)
実績値	約10% (既存焼却施設)	19.60%	20.86%			
指標②	燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度					
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		75%以上	75%以上	75%以上	75%以上	75%以上
実績値	—	硬質プラ：20.75% 小型家電：81.53%	硬質プラ：24.81% 小型家電：84.88%			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・新しいごみ焼却施設にて、指標としている発電効率（17%以上）を達成できるよう引続き運営のモニタリングを実施します。</p> <p>②・また、運営事業者による選別状況について引続きモニタリングするとともに、燃やせないごみに含まれる硬質プラスチックの選別精度については、当初計画していたごみ質に近いごみを用意し、そのごみを処理した際に硬質プラスチックの選別精度75%以上を達成できるか確認します。</p> <p>※変化するごみ質によらず水準を維持できるよう各年同じ目標値としています。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
一定の数値を維持することが難しいので、目標値には変化がないのであれば、その旨を記載したほうがよいのではないか。	多様なごみの搬入があるなか、安定したごみの焼却を継続し、発電効率を維持していくことや資源化物の選別精度を一定水準確保する必要があるため同じ数値目標としております。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①・旧焼却施設の蒸気タービン発電の効率は10%程度でした。しかし、新焼却施設（2022年1月竣工）における発電効率は概ね20%を超えており、目標値を達成しています。</p> <p>②・燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度について、小型家電については目標値を達成することができましたが、硬質プラスチックについては達成できていない状況です。これは、目標となる数値を設定した時期（2015年）のごみ質と比べて、現在は容器包装プラスチックが多くなっていることが原因です。また、処理の過程で細くなった硬質プラスチックは、容器包装プラスチックに混ざってしまうため、手で選別することが困難な状況です。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・新しいごみ焼却施設にて、指標としている発電効率（17%以上）を達成できるよう引続き設備全般に対する安定的で継続する運営のモニタリングを実施し、発電効率の確認を行います。</p> <p>②・目標達成に向けて工夫をしてきましたが、現在の状況では選別精度75%を達成するための効果的な改善策がないため、運営事業者と協議し、2023年度は暫定的に30%を目標として取り組むこととしました。モニタリングを実施し、目標達成に向けて運営事業者と改善を重ねてまいります。</p>

取組施策	推進主体
4-1-2 生ごみのバイオガス化施設の整備・運営	循環型施設管理課

【指標と目標値】

指標①	発電量（熱利用率）						
	年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt	350kWh/ごみt
実績値		—	393kWh/ごみt	418kWh/ごみt			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・バイオガス化施設では、ごみ質の変動にかかわらず指標としている発電量が目標値を達成できるよう、運営事業者の施設運転状況等についてモニタリングを行います。目標値が達成できない場合、運営事業者と協議し、改善を促して目標値の達成を目指します。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
該当なし	

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
	○
取組経過・1年間の総括	
<p>①・施設の運転にあたり発生した余剰ガスを燃焼させ廃棄することで効率が下がらないよう、発酵槽へのゴミ投入量を細かく調整するなど工夫した結果、発電量は目標値を達成しました。引き続き運転状況等のモニタリングを行い、安定した操業による目標値の達成を目指します。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・バイオガス化施設では、ごみ質の変動にかかわらず指標としている発電量が目標値を達成できるよう、運営事業者の施設運転状況等について適切に操業が行われているかモニタリングを行います。目標値が達成できない場合、運営事業者と協議し、改善を促して目標値の達成を目指します。</p>

取組施策	推進主体
4-1-3 資源化施設の整備	循環型施設整備課

【指標と目標値】

指標①-1	施設整備の進捗状況（相原地区）					
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		都市計画決定	事業認可・ 用地取得	実施設計	整備工事	施設稼働
実績値	施設概要の検討	都市施設の告示	事業認可・ 用地取得開始			
指標①-2	施設整備の進捗状況（上小山田地区）					
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		基本計画検討・用地測量・都市計画決定・用地取得・実施設計				
実績値	施設概要の検討	施設概要の検討	施設概要の検討			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>町田市資源循環型施設整備基本計画に基づき、ビン、カン、ペットボトル、容器包装プラスチック等の資源ごみ処理施設を市内に分散して整備します。また、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラ新法）を受けての国や都の動向にも注視します。</p> <p>①-1・相原地区の資源ごみ処理施設整備に向け、事業用地の取得を進めます。</p> <p>①-2・上小山田地区の資源ごみ処理施設整備に向け、道路事業との調整並びに地元地区連絡会その他関係者と調整し、施設基本計画の検討を行います。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
資源化設備の整備のスケジュール表をきちんと作成し、進捗状況を管理し、報告すべき。	整備にあたりましてはスケジュールを策定し、進めていきます。また、進捗につきましては、随時報告させていただきます。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①-1、①-2・町田市資源循環型施設整備基本計画に基づき、ビン、カン、ペットボトル、容器包装プラスチック等の資源ごみ処理施設を市内に分散して整備する取組のうち、①-1「施設整備の進捗状況（相原地区）」については、都市計画事業認可を受け用地取得を開始しました。①-2「施設整備の進捗状況（上小山田地区）」については、道路事業及び上小山田地区資源ごみ処理施設連絡会、その他関係者との調整を行いました。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>町田市資源循環型施設整備基本計画に基づき、ビン、カン、ペットボトル、容器包装プラスチック等の資源ごみ処理施設を市内に分散して整備します。また、2022年4月に施行されたプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラ新法）に基づき、国や都の動向にも注視しながら容器包装プラスチック及び製品プラスチックの資源化に向けた施設整備を目指します。</p> <p>①-1・相原地区の資源ごみ処理施設整備に向け、事業用地の取得を進めます。</p> <p>①-2・上小山田地区の資源ごみ処理施設整備に向け、道路事業及び上小山田地区資源ごみ処理施設連絡会、その他関係者と調整し、施設基本計画の検討を行います。</p>

取組施策	推進主体
4-2-1 収集体制の見直し	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	効率的な収集体制の構築						
	年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	構築
実績値		—	情報収集	方針検討			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・収集業務サポートシステムを活用して検討を更に深度化し、高齢者をはじめ市民の利便性と共に、CO2の削減を考慮した、効率的な収集体制の方針案を策定します。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
<p>カーボンニュートラルや資源化率の向上のために、収集体制は随時見直す必要がある。アンケート等の結果などがあれば、ぜひとも審議会でも報告いただきたい。また、今後は、どのようなルート、どのような車両だとCO2がどの程度削減できるのか、などの具体的な話が議論の中心となる必要があるのではないか。</p>	<p>アンケート等の結果を踏まえて検討した結果を、次回の審議会でご報告いたします。 収集体制の見直しにおいて、CO2の削減については、重要な課題だと認識し、収集地区割りや収集ルートの見直しなど、収集車の走行距離を減らすための検討や、省エネ対策の取られた収集車両の導入について検討を行っています。</p>

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①以下のとおり効率的な収集体制の検討を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月から10月にかけて、可燃ごみ収集運搬業務受託事業者7社の収集車に、収集サポートシステム[※]を使用したタブレット端末を搭載して走行し、走行距離、走行ルート、積載量、収集時間のデータを取得しました。 ・11月から12月にかけて、取得したデータの分析を行った結果、収集車ごとの積載量にばらつきがあることが明らかになったため、収集車同士が応援し合いながら、効率的に収集することが可能な地区割り案を作成しました。 ・1月から3月にかけて部内で検討し、ごみの減量・資源化を推進するためのプラスチックの分別収集や、高齢化社会への対応として、資源を戸別収集に変更するほか、働き方改革を考慮した土曜日収集の廃止、CO2削減のための収集頻度の見直し等について、必要経費や走行距離の試算、メリット・デメリットの整理を行いました。集めた資源の中間処理の方法や収集運搬方法の検討に時間を要し、方針案の策定には至りませんでした。 <p>※収集業務サポートシステム：タブレット端末を使用しながら収集を行い、収集時間や走行距離、収集量のデータを蓄積することで、効率的な収集ルートを導くことができるシステム。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・4月～5月に資源の中間処理先、収集運搬方法、市民の排出方法について、部内関係課と検討を進め、6月に効率的な収集体制の方針案を策定し、8月に方針を決定します。</p>

取組施策	推進主体
4-3-1 資源化の拡大	環境政策課 循環型施設管理課

【指標と目標値】

指標①	調査研究の実施					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		実施	実施	実施	実施	実施
実績値	—	実施	実施			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・使用済み紙おむつの資源化について、紙おむつの排出実態等の調査を実施します。また、リサイクルルートについて、国や事業者等の動向の把握に努めます。</p> <p>①・新たな資源化品目の設定を目指し、増加傾向にあるごみの資源化に向けた調査研究を行います。</p> <p>①・資源化に向けた取組について、民間事業者と情報交換を行います。</p> <p>①・リサイクル広場で回収している資源について行政回収の品目に加えることも想定しながら、回収品目について検討します。</p> <p>①・落ち葉の資源化に向けて、前年度よりも落ち葉の量を増やして実験を行い、たい肥化が可能であるか確認を行います。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
紙おむつについては、調査研究だけではなく、都の実証事業に取り組むなど積極的な動きを作れたことは大変評価できると思う。その結果を今後どのように生かしていくかについて注視していきたい。	実証事業に協力したことを今後の施策に活用することができるよう、引き続き調査・分析を行います。特に、大人用紙おむつの排出実態等の調査を行うことを予定しています。また、リサイクルルート確保に向けた情報収集を引き続き行います。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
<p>①・使用済み紙おむつのリサイクルの可能性や課題について、東京都や紙おむつリサイクル事業者と意見交換を行いました。また、2021年度に実施した「使用済み紙おむつのリサイクル推進に向けた実証事業」で課題となった大人用紙おむつの使用実態を把握するため、市内高齢者施設に対しアンケート調査を行いました。アンケート調査結果から、施設入居者の約71%が大人用紙おむつを使用していることがわかりました。また、市の全高齢者施設から排出される紙おむつの推計量は年間約2,000 t となっており、事業系一般廃棄物全体の10%以上を使用済み紙おむつが占めていると想定されることがわかりました。</p> <p>①・プラスチック類の資源化品目拡大に向け、2023年3月20日にHOYA(株) アイケアカンパニーと「使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収に関する協定書」を締結し、コンタクトレンズの空ケースの回収に向けた調整を行いました。</p> <p>また、リサイクル広場においても、使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収を実施できる体制を整えました。</p> <p>①・落ち葉の資源化に向けた実験のため、落ち葉搬入部署と搬入物の事前立会確認を4月、10月、11月に実施しましたが、落ち葉回収（公園清掃）の際に混入する異物が問題となることが判明しました。異物除去の上での搬入を依頼しましたが、公園清掃作業員(ボランティアやシルバー人材)へは強制が出来ないため今年度は搬入されませんでした。腐葉土を作っている事業者へヒアリングを行なったところ、取組実現には手選別エリアの整備(更なる人手とコスト)などが必要となることがわかりました。</p>		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・新たな資源化品目の設定を目指し、増加傾向にあるごみ種などの資源化に向けた調査研究を行います。</p> <p>①・プラスチック類の資源化品目拡大に向け、4月1日から使い捨てコンタクトレンズの空ケースの拠点回収を市内10施設で開始します。</p> <p>4月1日から、リサイクル広場においても使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収を実施します。また、家庭用生ごみ処理機等の利用台数の増加施策を促進し、生ごみの発生抑制を図るため、家庭用生ごみ処理機一次生成物の回収を開始できるよう調整します。</p> <p>①・落ち葉の資源化に向けては、たい肥化以外の方法を模索します。</p>

取組施策	推進主体
5-1-1 災害時等のごみ処理に関する計画の見直し	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	災害廃棄物処理計画及び職員行動マニュアルの見直し					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		見直しの実施	見直しの実施	見直した職員行動マ ニュアルの検証	見直しの実施	見直しの実施
実績値	—	見直しの実施	見直しの実施			
指標②	事業継続計画の見直し					
年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		見直しの実施	見直しの実施	—	—	—
実績値	—	見直しの実施	見直しの実施			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①②・2021年度に見直した災害廃棄物処理計画を踏まえた、職員行動マニュアルの見直しについての検討や仮置場候補地の現地調査を行います。また、町田市バイオエネルギーセンターの稼働や感染症の拡大を想定した、廃棄物処理事業継続計画の見直しを行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
「災害時等」には今般のコロナ禍のような自体も含めて考えることになってははずであり、コロナ禍への対応の経験を整理して今後の教訓をまとめ、計画・マニュアルに反映できる部分は反映した方がよいのではないかと。	コロナ禍の教訓をふまえ、2022年度は廃棄物処理事業継続計画の見直しを行う予定です。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	○
取組経過・1年間の総括		
①②・2021年度の災害廃棄物処理計画の見直しや、災害廃棄物処理を想定した訓練等で明らかになった課題を踏まえ、職員行動マニュアルを見直しました。また、災害廃棄物の仮置場候補地の現地調査を9か所行い、災害廃棄物の円滑な排出、処理ができるような仮置場レイアウトについて検討しました。さらに、町田市バイオエネルギーセンターの稼働や感染症の拡大を想定した、廃棄物処理事業継続計画の見直しを行いました。		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
①②・災害廃棄物処理を想定した訓練を通じて、職員行動マニュアルの検証を行います。また、引き続き災害廃棄物の仮置場候補地の現地調査を8か所行い、災害廃棄物の円滑な排出、処理ができるような仮置場レイアウトについて検討します。

取組施策	推進主体
5-1-2 災害時等の教育・訓練	環境政策課 ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	災害時の対応訓練の実施回数						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			1回	1回	1回	1回	1回
実績値		—	1回	1回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・引き続き、災害廃棄物処理に関する理解を深め、部署内で知識や経験を定着させるために、仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を実施し、仮置場の開設手順や搬入の流れについて確認します。</p> <p>①・災害時の資源とごみの適正排出について、「ECOまちだ」と「資源とごみの収集カレンダー」に啓発記事を掲載します。また、SNSを活用して広く市民に周知を図ります。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
<p>発災時には迅速な初動対応が重要であることから、職員の異動により動きが鈍ることのないように訓練を継続していただきたい。</p>	<p>職員が異動しても円滑に災害対応ができるよう、引き続き訓練を実施していきます。</p>

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	○
<p>①・道路の通行を妨げるがれきや市民によって排出される家財道具などの災害廃棄物が発生した場合を想定した訓練の企画を道路部と合同で行い、11月に実施しました。訓練では、発生した災害廃棄物を集積する仮置場の開設、運営、搬入の手順を検証するために、仮置場の開設手順や分別レイアウト、搬入の流れについて確認しました。</p> <p>①・災害時の資源とごみの適正排出について、9月に全戸配付した2022年10月～2023年9月版「資源とごみの収集カレンダー」及び2023年度版「資源とごみの出し方ガイド」に掲載したほか、環境広報紙「ECOまちだ」2023年1月15日号に記事を掲載しました。さらに、市HPに災害時のごみ出しについて掲載しました。</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・引き続き、災害廃棄物処理に関する理解を深め、部署内で知識や経験を定着させるために、仮置場の開設、運営、搬入の検証を行う実動訓練を、災害廃棄物に関する協定を締結した一般財団法人町田エコライフ推進公社と連携して実施し、仮置場の開設手順や搬入の流れについて確認します。</p> <p>災害時の資源とごみの適正排出について、環境広報紙「ECOまちだ」、「資源とごみの収集カレンダー」、「資源とごみの出し方ガイド」に啓発記事を掲載します。また、市HPに災害時にごみをできるだけ出さない方法や、平常時の心掛けに関する情報を掲載します。</p>

取組施策	推進主体
5-1-3 応援・受援体制の整備	環境政策課

【指標と目標値】

指標①	他自治体等との連携体制の構築						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			情報収集	協定締結	拡充	拡充	拡充
実績値		—	情報収集	協定締結			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①・市内や近隣の廃棄物収集運搬処理事業者から情報収集しながら、災害廃棄物の収集運搬処理が可能な事業者を模索し、協定を締結します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
該当なし	

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
①・市内や多摩地域の自治体、市の収集委託事業者や一般廃棄物処理業許可業者から情報収集を行い、発災時に災害廃棄物の収集運搬処理が可能な1社と協定を締結しました。	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
①・災害廃棄物の収集運搬処理が可能な市の一般廃棄物処理業許可業者との協定締結に向けて調査を行います。また、引き続き、災害廃棄物の収集運搬処理が可能な事業者の情報収集を行います。

取組施策	推進主体
5-2-1 高齢者等に対応した収集体制の検討	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①		資源の戸別収集の検討				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	完了
実績値	—	情報収集	方針検討			

指標②		ふれあい収集事業の見直し				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		情報収集	方針検討	方針決定	実施準備	完了
実績値	—	情報収集	方針検討			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①・資源の戸別収集について高齢者、障がい者担当部署と連携して検討を行い、収集体制の方針案を策定します。 ②・収集現場の現状を踏まえた収集体制・仕組みの検討を実施します。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
ふれあい収集の需要は増加していくことが予想できる。人員体制の整備も必要だが、サービスを必要としている市民にきちんと届くような仕組みづくりを福祉分野等と連携して構築する必要があると思う。	ふれあい収集については、ケアマネージャーから対象の高齢者の方等へ事業内容についてご説明いただいています。今後も必要の方に情報が届くよう、福祉分野との連携を行ってまいります。 加えて、高齢者をはじめ全ての方が、ごみの分け方、出し方を簡単に確認できるよう、わかり易い資源とごみの収集カレンダー作りを行ってまいります。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
①・資源の戸別収集については、9月15日に高齢者福祉課、福祉総務課、障がい福祉課と、高齢者、障がい者への行政サービスの現状と、ごみ収集課に期待するサービスに関する意見交換を行いました。高齢者については、独居高齢者が増加し、ごみ集積所までの資源の運搬が困難な方の対応が求められていること、ふれあい収集の継続を期待されていることがわかりました。また、障がい者については、資源とごみの分別にサポートの必要なケースが増えており、資源とごみが出しやすくなるよう期待されていることがわかりました。ご意見を参考に、効率的な収集体制の方針案の検討を行いました。	
②・ふれあい収集事業の見直しについては、現状を把握するため、10月21日にケアマネージャーが参加する連絡会及び障がい者支援センター長による障がい者支援センター連絡会に参加しました。また、10月27日に高齢者支援センター職員による見守り相談連絡会に参加し、利用者の生活支援に関する情報交換を行い、ふれあい収集の条件緩和等のご意見をいただきました。収集体制、仕組みについては、ニーズの拡大に対応するため、ふれあい収集を燃やせるごみ収集のついでではなく、一つの独立した事業と位置付けることについて検討を行いました。	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
①・資源の戸別収集については、市民の排出方法や収集方法について検討を進め、8月に効率的な収集体制の方針を決定します。 ②・ふれあい収集事業の見直しについては、ふれあい収集利用の条件、収集主体、収集方法について検討を進め、8月に効率的な収集体制の方針を決定します。

取組施策	推進主体
5-3-1 不用品の違法回収防止対策の推進	環境政策課 ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①		指導体制の確立				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		体制の検討	体制の検討	体制の確立	体制の運用	体制の運用
実績値	—	体制の検討	体制の検討			

指標②		違法回収利用の未然防止を図るための啓発回数				
年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値		5回	5回	5回	5回	5回
実績値	1回	5回	6回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①・不用品の違法回収防止対策を推進するため、指導体制が確立している先行自治体の調査研究を行い、効率的な指導体制確立に向け検討を行います。 ②・市民が違法回収業者を利用しないよう、SNSや広報紙等を使用した啓発を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
不用品の違法回収防止や不法投棄防止策についてもっと積極的な対策を作るべき。単にパトロールを強化するだけでは、限界がある。設備面も含め、地元ともっと突っ込んだ議論が必要ではないか。	違法回収・不法投棄対策について、引き続き町田警察、南大沢警察と連携し、地元の要望をしっかりと確認した後、啓発看板の設置や防犯カメラの設置、パトロール強化を行ってまいります。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	○
①・東京都環境局産業廃棄物対策課不法投棄担当者と不用品回収に関する情報交換を行い、今後の対策と指導体制の検討を行いました。 ②・各家庭で多量にごみの廃棄が発生し、違法な不用品回収業者とトラブルが発生しやすい引っ越し時期（3月）に利用しないようSNSで周知しました。 ②・市民が違法回収業者を利用しないための啓発として、「家庭から出る不用品の回収は、町田市許可業者しか行うことができないため、無許可の回収業者を利用しないようにしましょう」という注意喚起、許可業者一覧、粗大ごみの受付案内、ごみ収集課の相談先などを、2022年10月～2023年10月版「資源とごみの収集カレンダー」、環境広報紙「ECOまちだ」2023年1月15日号及び2023年度版「資源とごみの出し方ガイド」に掲載しました。また、ハスのんInstagram、ハスのんTwitterでも同様の周知を行いました。	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
①・消費生活センターとの連携や他自治体と情報共有を行い、不用品回収業者に対し効果的な指導ができるよう、情報提供を受けてから初動対応していく手法や業務体制を確立していきます。 ②・市民が無許可の不用品回収業者に関わり高額請求を受けたりしないよう適宜SNS等を活用し情報発信していきます。 ②・市民が違法回収業者を利用しないよう、SNSや広報紙等を使用した啓発を行います。

取組施策	推進主体
5-3-2 不法投棄防止対策の推進	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	不法投棄防止・抑止活動の実施回数						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			198回	176回	198回	198回	198回
実績値		148回	176回	198回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・昼間、夜間のパトロールを行い、不法投棄の防止、抑止を図ります。</p> <p>①・監視カメラや啓発看板を活用して、不法投棄がされにくい環境を整えます。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
不法投棄のパトロールと持ち去り防止のパトロールを行った際のデータを丁寧に分析し、パトロールの回数やコースの変更が必要なのか、といったことを検討していく必要がある。	不法投棄、持ち去りパトロールについて、データ分析に伴うコースの見直しを状況に合わせて随時行っています。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①パトロール（昼間150回・夜間48回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間パトロールについて、当初の想定では128回/年でしたが新型コロナウイルス感染症が落ち着いたため、150回/年実施しました。 ・パトロールコースについて、2021年度に貸与した啓発看板設置場所を含めたコースに見直しを行いました。また、継続的に不法投棄多発地域のパトロールを実施し、不法投棄を発見した場合は、関係部署に連絡して対応を依頼するなど、状況に応じた処理をしました。 ・夜間パトロールについては、青色回転灯を装着し防犯も兼ねたパトロールを48回/年実施しました。 ・警察との連携については、4月18日に町田警察署、4月22日に南大沢警察署、2月15日に町田警察署と南大沢警察署を訪問し、協力を依頼しました。 <p>①監視カメラ・啓発看板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の設置場所の監視が必要な為、新設・移設は行っていません。 ・啓発看板について、市民からの要望を受けた貸与件数は70件、貸与枚数は140枚でした。 	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・昼間、夜間のパトロールのコースの見直しを行い、不法投棄の防止、抑止を図ります。</p> <p>①・不法投棄多発場所に監視カメラや啓発看板を設置し、不法投棄がされにくい環境を整えます。</p>

取組施策	推進主体
5-3-3 まちの美化の推進	環境共生課

【指標と目標値】

指標①	美化推進キャンペーン実施回数						
	年度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			4回	20回	22回	22回	22回
実績値		4回	18回	27回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
<p>①・美化推進重点区域内及び付近の町内会・自治会や商店会等と協力して啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャンペーン」や、主に市の職員が市内各駅周辺にて啓発品の配布や清掃活動を行う「美化推進キャラバン」等により美化推進啓発活動を行います。</p> <p>①・ハスのんInstagramへの投稿や、市のホームページを活用し美化推進重点区域の周知等、情報発信を行います。</p> <p>①・美化推進重点区域内及び付近の町内会・自治会や商店会等との連携のとれたイベント等の啓発活動のあり方を検討します。</p> <p>①・南町田グランベリーパーク駅付近にて、美化推進重点区域外用のポイ捨て防止対策用路面シートの実証実験を始めます。</p>

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
該当なし	

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価
取組経過・1年間の総括	
<p>①・2022年度は、ごみゼロデー美化キャンペーン1回、美化推進キャンペーン4回、美化推進キャラバン5回、町田駅周辺巡回指導12回、啓発記事発信3回、実証実験2回、合わせて27回の啓発活動を行いました。</p> <p>ごみゼロデー美化キャンペーン：多摩境（5月29日）</p> <p>美化推進キャンペーン：鶴川（6月30日）、南町田グランベリーパーク（10月16日）、成瀬（12月20日）、町田（1月14日）</p> <p>美化推進キャラバン：玉川学園（4月28日）、相原（5月26日）、町田（6月23日）、つくし野（11月29日）、すずかけ台（2月22日）</p> <p>町田駅周辺巡回指導：4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、8月23日、9月27日、10月25日、11月28日、12月21日、2月2日、2月21日、3月29日</p> <p>啓発記事発信：多摩境駅周辺の美化推進重点区域及び道路等喫煙禁止区域の指定（4月11日）</p> <p>ごみゼロデー（5月27日）</p> <p>南町田グランベリーパーク駅周辺の美化推進重点区域及び道路等喫煙禁止区域の指定（9月9日）</p> <p>実証実験：南町田グランベリーパーク駅周辺（桜美林大学と連携、6月9日開始）</p> <p>玉川学園前駅周辺（玉川大学と連携、1月17日開始）</p>	

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
<p>①・以下の美化推進啓発活動を行います。</p> <p>「美化推進キャンペーン」：美化推進重点区域内及び付近の町内会・自治会や商店会等と協力して啓発品の配布や清掃活動を行う。</p> <p>「美化推進キャラバン」：主に市の職員が市内各駅周辺にて啓発品の配布や清掃活動を行う。</p> <p>「町田駅周辺巡回指導」：美化推進員とともに喫煙マナーの指導や啓発活動を行う。</p> <p>①・ハスのんInstagramへの投稿や、市のホームページを活用し美化推進重点区域の周知等、情報発信を行います。</p> <p>①・町内会・自治会や商店会等との連携のとれたイベント等の啓発活動のあり方を検討します。</p> <p>①・南町田グランベリーパーク駅周辺及び玉川学園前駅周辺にて、実証実験を行い、美化推進重点区域外用のポイ捨て防止対策用路面シート設置によるポイ捨てごみ等の減少の有無を検証します。</p>

取組施策	推進主体
5-3-4 持ち去り行為防止対策の推進	ごみ収集課

【指標と目標値】

指標①	持ち去り防止活動の実施回数						
	年 度	2019年度 (実績値)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標値			5回	6回	7回	8回	10回
実績値		3回	0回	3回			

【事業計画】

2022年度の取組方針・内容
①・地域住民、警察、市の合同パトロールを行い、啓発看板の掲示等持ち去り行為をする者を近寄らせない環境づくりを進めます。 ①・持ち去り行為を防止するため職員による持ち去りパトロールを実施し、持ち去り者に対する指導を行います。

【審議会からの意見】

審議会からの主な意見	市の対応
里山や市街化調整区域が多い市内には、予算もあるだろうが抑止も兼ねて監視カメラを増設し、警察と協力し徹底的に取り締まるべき。	要望に応じ監視カメラの増設や移設を行っています。また、警察と連携して不法投棄されにくい環境を整えています。

【評価】

2022年度点検結果	町田市評価	△
取組経過・1年間の総括		
①合同パトロール ・資源物持ち去り行為防止活動団体からの協力依頼をもとに、実施を支援している合同パトロールは、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた為、地域住民・警察・市の合同で3回実施しました。 ①職員のパトロール ・警察OB2名が月20回程度、月曜日から土曜日の行政の古紙古着収集コースを中心に実施しています。 ・警察との連携については、4月18日に町田警察署、4月22日に南大沢警察署、2月15日に町田警察署と南大沢警察署を訪問し、協力を依頼しました。		

【2023年度の事業計画】

2023年度の取組方針・内容
①・地域住民、警察、市の合同パトロールを行い、啓発看板の掲示等持ち去り行為をする者を近寄らせない環境づくりを進めます。 ①・持ち去り行為を防止するため職員による持ち去りパトロールを実施し、持ち去り者に対する指導を行います。